



MIKI
INTERNATIONAL
ASSOCIATION

VOL 23

2005 .3(平成17年3月)

三木市国際交流協会



2004クリスマスパーティーin Miki

ジャズと着物で国際交流！！



恒例のクリスマスパーティーが12月4日(土)午後4時から三木市役所みつきいホールで開催されました。今回は会員のみなさんや外国の方30名(アメリカ、イギリス、オーストラリア、中国、韓国、フィリピン、ベトナム、タイ、ブラジル、インドネシア、ペルーなど)の他、一般市民のみなさんを合わせて、計120名の方に参加いただきました。

オープニングでは三木市議会副議長、安居圭一氏の祝辞をいただきました。同氏は祝辞の中で「市内には600名を超える外国の方が私たちと共に暮らしていますが、お互いせっかく隣同士でありながら親しく知り合い交流を



サムライと美女勢揃い



戸倉理事とアルフレド氏のあいさつ

深める機会が限られています。このパーティーはこの意味で貴重な機会です。お互いが笑顔と握手を交わし交流の華を咲かせましょう。」と呼びかけてくださいました。

次いで、外国人ゲストがステージに上がり自己紹介をしました。ペルーの中田アルフレドさん一家のように家族全員での参加もあり、よく慣れた日本語での自己紹介に拍手が沸きました。特に関西国際大学からは20名近い留学生が参加。いずれも見事な日本語であいさつをしました。

続いて、岩崎和子さんのお世話による「着物ショー」です。2年前から始めたプログラムですが、なかなかの好評で、今回は是非にという声があり行ないました。

男性の紋付羽織はアメリカのリック君、リッチ君、タイのジェンサクル君です。映画「Last Samurai」を見てすっかりサムライファンになったリック君とリッチ君は刀を腰に差して登場し大満足でした。女性のローラさん(イギリス)やカイリーさん(オーストラリア)らは、振袖、訪問着、久留米紬などを着て日本風におしとやかなポーズで応えました。また、中国の留学生、殷 艶さんや韓国のユンセオンさんなどは日本のお嬢さんと変わらないくらいの姿で笑みを振りまきました。みなさん初めての着物姿に興奮気味で記念写真のフラッシュが光り続けました。

ミニコンサートには三木市在住のジャズマン、長谷川功男氏率いる「ベイシースペシャルバンド」が登場。

“Fly me to the moon” “The Five Pennies ~ Lullabye in Rag Time” “A列車で行こう” “ベサメ・ムーチョ”などを演奏。林 りえさんのボーカルや川野典雄さんなどのダンスも加わり、クリスマスの雰囲気盛り上げました。会場の隅では、会員の中筋洋子氏らボランティアの方が茶席を設けて「立て出し」をしていただきました。また、中和美佐乃さんは自作の織物を飾っていただきました。いずれも、特に外国人ゲストのみなさんに好評でした。

歓談・会食の時間には日本語と外国語、それにジェスチャーを駆使しての交流が繰り広げられました。今回はこの歓談時間をより多くとりました。みなさんに満足いただいたのではと思います。

河越さんと新田さんの名コンビによる司会で進んだパーティーも、戸倉皎太郎理事の閉会あいさつと中田アルフレドさんのスペイン語でのあいさつ。最後に、バンド演奏に合わせて「White Christmas」をみなさんで合唱。クラッカーの響きの中で「2005年の平和と繁栄」を祈ってお開きとなりました。ご協力ありがとうございました。



ベイシースペシャルバンド



『三木金物まつり 2004』 11月6日(土)・7日(日)

市制施行50周年記念事業 産業と文化の祭典

国際チャリティーバザー 163,270円 ありがとうございました

11月6日(土)と7日(日)の2日にわたり、三木金物まつりが市役所周辺会場で行なわれました。今回は2日とも好天に恵まれ市内外から172,000人のお客様が訪れ盛会でした。

特に、国際交流協会としての目玉は前回に続いて1日目(土)に行なった国際チャリティーバザーでした。チャリティーバザーボランティアグループ(12名)は9月10日に活動を開始。広報宣伝、物品収集、物品仕分け、値札付けの作業を行ない当日は早朝から物品を展示し午後5時まで声をからして協力を呼びかけました。物品は昨年をやや下回る80のご家庭や事業所から提供いただきました。また、テントも従来のメイン会場から文化会館前に変わったため、来客数の落ち込みが心配されたのですが、呼び込みをしたり、看板を工夫したりするなどしたため、なんとか目標額に近づけることができました。結果、163,270円を集め、日本国連HCR協会、三木市ユネスコ協会、国際エンゼル協会に寄付することができました。国際エンゼル協会では当国際交流協会からの寄付金でバングラデシュの学校トイレを作ることになっています。トイレのドアにはプレート「三木市国際交流協会・Miki International Association」が貼られます。物心両面に涉るご協力、本当にありがとうございました。

なお、2日目にはPHD協会や国際エンゼル協会がバザーや民芸品の販売をしました。

ボランティアの熱のこもった売り声がたくさんのお客様を呼び込み、ほとんどの品を売り尽くしました。特に、ネギ焼きや陶器類・ジャムが好評でした。この売上金もそれぞれの協会の国際支援事業のためにネパール、バングラデシュ、フィリピンなどで使われます。来年度もご協力をお願いいたします。

ありがとうございました。



大江町からオーリック夫妻も応援に



ごったがえす人々とバザーの品々



チャリティーバザーはこちらですー!!



第5回国際理解講座(2月13日)

「HOE三木英語落語寄席」

Laughs and Smiles in HOE Miki English Rakugo

2月13日、教育センターで「第5回HOE三木英語落語寄席」が持たれました。幸い、連休にもかかわらず85名のみなさんに伝統芸落語を英語で楽しんでいただきました。今回は代表の山本正昭氏の他4名にそれぞれ熱演いただきました。また、当会員の岡田富美さんには着物姿でお茶子役(めくりや座布団直し)を務めていただきました。特にクリス(カナダ出身)の「Onomatopia」や小夜姫の「子ほめ Compliments」が好評でした。(来年は2月5日に予定しています。ご期待ください。)

国連防災世界会議

The United Nations World Conference
on Disaster Reduction

平成17年1月18日～22日

18 22 January 2005

神戸国際会議場・神戸国際展示場

阪神・淡路大震災総合フォーラム
総合防塞展 “ボランティアも活躍”
「三木市 防災工具など展示PR」

1月18日から22日にかけて「国連防災世界会議」が神戸市ポートアイランド国際会議場を中心に開催されました。これは国連防災世界会議推進協力委員会が阪神・淡路大震災10周年を迎えて、防災対策の方法とその必要性を世界各国の人々とともに協議し国際防災ネットワーク編成をアピールしようという目的で開かれました。

この間、天皇陛下を始め内外の要人を含む1万名余りの国連、政府自治体、NPO、NGO、企業関係者が会場を訪れ、たまたま、昨年末12月26日に起こったスマトラ沖地震がもたらした津波のショックが覚めやらぬ時でもあり、津波対策が話題の中心となりました。

5日間に開かれたシンポジウム・セミナーの主なものは「日本の防災ノウハウ途上国との架け橋に」、「これからの津波防災に関する国際シンポジウム」、「アジア防災会議2005」、「国際洪水ネットワーク第2回総会」、「国際シンポジウム安全な地域社会をめざして」、「災害ボランティア世界会議」、「国際協力によるアジア太平洋地域の地震危険度評価とリスクマネジメント」などです。これらは英語と日本語の同時通訳付きで行なわれていました。

国際展示場では政府、国連機関をはじめ、企業、NPO、NGO、兵庫県及び自治体などが啓発展示活動をしました。「金物のまち」三木市も防災工具を中心に展示をしました。また、外国からの参加者に対応するため、協会ボランティア4名が協力参加しました。ボランティアのみなさんは、単に工具や三木の説明をするだけでなく、それぞれの国の災害対策やこの会議の印象を話題にして対応し相互理解に勤めました。

インドネシアの青年は「神戸へ来ることは前から予定していたが、突然の地震津波のためメンバーを減らしてやっと実現した。日本は災害対策、特に津波対策のノウハウを持っているので、大変参考になります。」といいながらも、早く帰って復興作業を手伝わねばといいました。

また、フロリダ防災通信社のJフリンさんは工具をひとつひとつ手にとって三木の金物について質問したり、最終日に訪れる予定の、三木市に完成した「E Defence（耐震実験装置）」のことを尋ねたりしました。その他にも、ハワイの「Pacific Disaster Center」マネージャー、Cテリスさん、イランの大学教授Sエシャギーさんの他、ルーマニア、フランス、ドイツのみなさんも訪れました。ボランティアのみなさんには、すばらしい経験になったと満足していただきました。ごくろうさまでした。



防災工具で人目を引きつけた「三木市」コーナー



コンクリート溝ふた吊クランプ（ネットレン）
便利な用具だと関心が集まりました。



火山爆発 溶岩 (lava) から逃げる人々
作 カバシャ・アマニ君 (コンゴ)
世界各国のこどもが描いた「防災カレンダー」から

「Viva Colombia ! アンデスの風に吹かれて」

坂口 等 氏・坂口 千鶴 氏



坂口 等氏は1986年文部省から在コロンビア日本国大使館付属日本人学校に派遣され、3年の後神戸市の中学校に復帰、現在は国際理解教育を中心に活動を続けています。また、妻の坂口千鶴氏は2児とともに夫に同行、諸外国での見聞や感動をハーブコンサートの形で人々に伝え、芸術活動を通して国際交流や国際サポートを実践しています。当日はお二人交互にコロンビアの国や人々について興味深い内容を語っていただきました。

参加した30名のみなさんは、質問をしたり、坂口氏がお持ちいただいたコロンビアの産物（アンモナイトやエメラルド原石など）を手で確かめたりして、まだ見ぬ遠い国コロンビアを身近に感じることができました。

Buenas Tardes こんにちは。わたしたちがコロンビアの首都ボゴタにいたのは16年前のことです。ところどころ現在のコロンビアにピントが合わないところもあるかとは思いますが、体験したことや感じたことをふたりで代わる代わるお話ししようと思います。

これはコロンビアで手に入れた世界地図です。真ん中にあるのはコロンビアです。日本は端っこにあります。「所変われば品変わる」です。

また、日本の家では、玄関のドアは外開きですが、外国では内開きが一般的です。日本では当たり前のことが、外国では異なります。このように、物の見方や考え方を変えることが大切です。日本にいた時と多くの事が逆転します。慣れるのにたいへんでした。

国際理解の基本はこのような違いを知り認めることから始まります。と同時に日本人が日本のことを良く知り、それを世界に発信できてこそ真の国際交流になるといえます。

では、コロンビアという国の概要を見てみましょう。みなさんはコロンビアといえばどんなことが頭に浮かびますか。コロンビアコーヒー？ コロンビア大学？ コ

ロンブス？

私は夫の派遣先がコロンビアに決まると帰ってきたとき、「エーエ？」と慌てて地図で調べました。

この国は太平洋と大西洋に面しており、ペルー、ブラジル、エクアドル、ベネゼラ、パナマの5カ国と地続きです。また、南緯4°から北緯12°にまたがっており、ほとんど赤道直下に位置しているといっても過言ではありません。ところが、首都のボゴタなどはアンデス山地の高いところにあり、常春の気候です。

16世紀当初、1502年にコロンブスが上陸して以来、この国はスペインの植民地となりました。当時住んでいたのは山地に住むチブチャ族や海岸に住むカリブ族でした。後に原住インディオと白人や黒人との混血が進み、複雑な人種構成です。人種差別は少なく、日本人は東洋人として見られ、ごく自然に扱われているように思います。

首都ボゴタは美しいスペイン語が話されている都市です。宗教はローマカトリックが信じられており、キリスト教の祭りが行われ、手の込んだ教会が建てられています。コロンビア国の社会構成は一握り2%の上流階級が総所得の50%を占め、18%の中流が30%、80%の下流が20%の所得を占めています。底辺で生活する多くの人々の暮らしは相当ひどいものです。

また、都市部を除いては男性優位の世界です。

ところが、女性が実に良く働きます。日本の婦人はどうして働きに出ないのといわれたぐらいです。

義務教育は6歳から始まって5年間が小学校、4年間が中学校とはなっていますが、都市部ではともかく農村部では有名無実です。どこへ行っても子どもたち（ストリートチルドレン）が「お金！お金！」とせがみます。車を拭いたり洗ったりして稼ぐ子もいます。ごみを漁ってお金にする子もいます。最初はこの酷い現実をどう受け止めたらいいいのかと苦悩しました。

医療については個人医が多く、高度の医療が必要な場合は個人医が大病院の機器を直接使うことができるシステムになっていました。特に、近視の矯正手術が多く行なわれているのには驚きました。

文化的には地元インディオの文化とヨーロッパの文化が共存しているという感じでした。サッカーは最も人気のあるスポーツです。サイクリングや闘牛も盛んです。お昼は3時間の休み（シエスタ）があり、お店も銀行や会社も閉まってしまいます。あくせく働く日本からきた私たちには馴染めない習慣でしたが、次第に、ゆったりと時間を過ごすのもいいのではという気になりました。

コロンビアは西、中央、東に山脈が連なっています。それぞれ万年雪を頂いた5000メートル級の山があります。これは地球が収縮するときに海底が押し上げられてできたといわれます。したがって、地球創世紀の生物「アンモナイト」や鉱物資源（金・エメラルド）が豊かです。日本にも多く輸出されていますが、鉱床を牛耳っているのはマフィアです。

麻薬の栽培も盛んでこれもマフィアが押さえています。金については、インカやマヤ文明華やかかなりし頃から金

細工が盛んでした。スペインなどのヨーロッパの人々はこれを狙って徹底的に略奪を繰り返し、それを滅ぼしてしまっただけです。

石炭もありますが、山中から海岸まで運ぶ鉄道とか道路がありません。赤い美だけを手摘みするコロンビアコーヒーは、ブルーマウンテン級の高品質ということです。

農業では牛を3頭飼えば一生暮らせるとたとえられるほどです。ステーキなども500円だせば、小型のまな板サイズのものが食べられます。しかし、味は今ひとつです。年中緑草があり、牛乳も取れるので牛は貴重です。嫁入りには持参金代わりに牛を持って来る位です。

人口は約4300万人、首都ボゴタは400万人とも600百万人ともいわれます。何しろ多くは住民票を持たないので確たる数が掴めません。十分な仕事はないのですが、ほとんどの人々が町に住み、草原や山岳地にはわずかの人が住んでいません。

国土は日本の3倍です。ある日系の大農家はトラクターで一日がかりで回っても回り切れないほどの土地を持っています。

国内の移動は航空機が主となります。短距離で離着陸できる中型の飛行機が活躍します。時に、飛行機の中で、「灰皿」とか「右6番」とかの漢字表示を発見してびっくりしたことがあります。日本の航空会社の中古を使っていたのです。車で旅をすることも多いのですが、高地に住んでいても、2時間ばかり車で低地に降りると、年中真夏の所に着きます。トヨタやホンダの4輪駆動車が人気ですが、1,000万円程で売買されます。一般の人々はバスを利用します。満員の上に屋根やボディにも人が鈴なりになって乗ります。拉致や殺人事件は頻繁に起こります。

目の前で運転手が銃撃されるのを目撃したこともあります。学校ではその対策として避難訓練をします。一番に教えることは、拉致に合った場合は抵抗せずに付いて行けということです。政府はマフィアの麻薬売買や拉致を見過ごしているわけではありません。麻薬製造工場は見つけ次第襲撃して燃やしています。カーネーションに隠された麻薬、旅行者のスーツケースに下から穴を開けて麻薬を隠し国外で取り返すなどあらゆる手口で出て行く麻薬をアメリカなどの外国と協力して防いでいます。麻薬取引に関わった者には最高360年、150年などの極刑を課しているそうです。

しかし、極刑を受けた者の中には、ホテルのような豪華な独房で死ぬまで豪勢に暮らすという大物もいます。お金の力がまかり通る世界といえます。

わたしたちの異文化コミュニケーション

派遣先がボゴタと決まったとき、思わず「ボゴタってドコダ？」と唸りました。夫が地図で調べてコロンビアの首都であることが分かりました。「断わるか？」「行く？」と反芻した後、「行こう。地の果てまでも行って勉強してやろうじゃないの。」ということになりました。

現地ではメイドさんを雇いました。日本では考えられ

ないことですが、必要にせまられて雇いました。人を雇うことが貧困層の雇用創出に協力することにもなるのです。

ところが、日本人は人を雇い慣れていないことや、歳より若く見られることもあって、しばしば、トラブルに直面します。よく洗濯をするメイドさんだと思っていたら、実は親戚中の洗い物を持ってきて洗っているのです。昼食のお好み焼きを作ってあげると「ピッツアハボネーサ」と喜んで食べたのに、翌日には物を盗むといった具合です。即刻解雇。ひどく悲しい気持ちになりました。

アパートや町で「イロイトは元気か？」と挨拶代わりにいわれました。何のことが分かりませんでした。後に分かりました。スペイン語ではHは発音しません。昭和天皇「ヒロヒト」のことでした。日本という国は知られていなくて中国の首都が日本かなどという質問をされる程度なのに、天皇の名が知られているのでした。他に「忍者」や「ソニー」「イタチ(日立)」「本田」などはよく使われていました。

コロンビアの人々は誇り高いのか、役所銀行など窓口の接客態度が横柄です。言葉も不自由な初期の頃、やっとのことで換金を済ませたのですが、あまりの不親切さに、「バンコのパカ(銀行の馬鹿)」と大声で叫んだことがありました。後に「vacaパカ」は、スペイン語では「牛」のことだ知りましたが、、、

1986年のペソ交換レートは1米ドルが180ペソでした。ところがすごいインフレで瞬間に半分以下の価値に下がってしまいました。ドル立ての給料をペソに交換したとき、50ペソ紙幣が山盛りになりました。記念にと写真に残したくらいです。

とはいっても、一般にコロンビアの人々は温厚で、あくせくせずに生活しています。自然は広大で変化に富み美しいところです。経済的に大きな発展を遂げた日本が失った人情や生活リズムを残してもいます。3年間の滞在中でそれを感じたり見たりもしました。わたしたちは今でもコロンビアの自然と人々を懐かしく思い出して話題にしています。そして、必ずしも、豊かとはいえなかった人々の生活がよい方向に変化して欲しいと祈っています。ありがとうございました。

Q & A コーナー

Q1 戸籍のない人が多いということですが、選挙のときはどうするのですか。

A1 台帳に記入の後手のひらに紫色のインク(ペタンク)を押印して、投票が済んだことを証明します。

Q2 水はどうでしたか。

A2 一般の人は公園の蛇口からでも、飲んでいますが、慣れないわれわれは必ず沸かして飲むか、大きなガラス容器入りの飲料水を買っていました。

お願い!!! 生活用品を留学生に!!!

関西国際大学の留学生のために、ご家庭の生活用品(小物)を寄贈していただけませんか。例えば、電気ポット、炊飯器、小型暖房機等です。

お申し出は、当協会事務局(T89-2318)へ

「日本の田舎暮らし Country Life in Japan」

Jim Ulrich & 市原圭子



Jim Ulrichさんは1937年(昭和12年)に米国ロスアンゼルスで生まれました。現在67歳、京都府大江町の山裾にある村の一軒に妻の市原圭子さんと暮らしています。NHKのラジオや季刊誌「日本の田舎暮らし」でその暮らし振りを知り訪ねることになりました。

大江町波美(はび)は、三木から若狭舞鶴道を福知山まで、さらに175号線を由良川に沿って車で1時間と少しの所にあります。ジムさんの住いは波美の中央を少し裏山に向かって上がった所にありました。振り返ると由良川が見え広い平野が広がっていました。家は二階建ての母屋と庭、さらに二階建ての納屋があります。もちろん純日本家屋です。

出迎えてくれたのは、細身の身体にやさしい表情のジムさんと利発で上品な圭子さんです。座敷に通されました。座敷机といい床の間といい、すべて日本風です。床の間には額に入った版画と民芸調の織物がお二人の作であることを匂わせています。1時間以上も話をすることになりました。ジムさんは正座の姿勢を最後まで崩しませんでした。私は耐えられずに膝を崩させて貰いました。日本に住みつく外国人が珍しくない時代ですが、正座が習いとなるほどの人に合うのは始めてでした。

さて、ジムさんの略歴です。大学卒業後、すぐにNASAにエンジニアとして勤務、西アフリカNASAに転勤、アメリカに帰る途中アジア各国を見聞(5ヶ月)1968年会社勤めを止めてセイリングボートで南太平洋の航海(10年)香港の地下鉄に勤務、必死で貯蓄、京都の版画家に弟子入りし圭子さんと出会い結婚、田舎での芸術活動を求めて大江町に移住ということになります。一方的に話すのは苦手ということなので、フロアーからの質問に応える形で話していただきました。

Q1 NASAはエンジニアなら誰でも憧れると思います。せっかくそこで働くことになったのにどうして止められたのですか。

A1 私もNASAの職員であることに誇りを感じて働きました。マーキュリーやジェミニ計画に携わってきました。当時は20歳代または30歳代の技術者が主で、仕事には、やり甲斐を感じていました。西アフリカNASAに転勤になった時には、ロケットや衛星の軌道追跡(data transmission)の仕事でした。世界各地には18箇所に同様のセンターがあり、ヒューストンにはコントロールセンターの中に最新の大型コンピュータもありました。仕事は軍事にも深く関わっており秘密厳守という状況でしたが、職場ではお互い活発に自分の意見を述べ、切磋琢磨するというオープンな雰囲気でした。当時の同僚には今もNASAで働いている者もいます。これほど技術者冥利に尽きる職場といってもいいでしょう。

ただ、アメリカでは早くから親元を離れて独立するという躰をされます。さらに、一般の日本人のように生涯を同じ会社に勤めるというよりも変化を求めて生きることが普通です。そして、アフリカから帰国する前にアジアの各国を旅行して、世界には多様な文化、価値観、生活があることを知りました。貴重な私の人生です。机に座って仕事を続けるよりも、南太平洋をセイリングボートで航海したいと思い職を辞したわけです。

Q2 ご家族4人(ジム・妻・長男・長女)での10年間にもわたる南太平洋の航海について話してください。

A2 NASAの後、ロスアンゼルスに住み、別の会社に勤めながらボート造りに取り掛かりました。セイリングはアフリカでイギリスの友人からボートを譲って貰い、航海を教えて貰いました。ボートは2年後に完成。1968年の春、メキシコの港から出航しました。3月、4月の天候は航海に最適なのです。アカブルコ、タヒチ、クックアイランド、トンガ、フィジー、ソロモン、トラック、サイパンを巡りました。島が見えてくると、どっさりと果物を積んだ船が現われ、どこからともなくウクレレと歌声が聞こえてきます。島の人々は笑顔でむかえてくれました。ところどころで逗留しながら最後に鹿児島にたどり着いたのは10年後でした。桜島が真っ赤に見えたのが印象に残っています。私のボートは大きなクルージング用ではなく、セイリング用です。全長8mの小さなものです。位置確認用のGPSというような機器もないので、昼間にセクスタント(sextant・六分儀)で太陽を目印にして位置(position)を測りました。狭いキャビンに親子4人が過ごす毎日は陸での平凡な日常生活と変わらない毎日でした。平凡な毎日が続くと思ってください。船の往来の激しい瀬戸内海と違って、南太平洋ではめったに大きな船には出会いません。ただ、どんな時にもひとつ間違えると命に関わるということですから、こどもにも責任を持たせて安全には気配りをしました。例えば、たいてい島の周りはサンゴ礁がリンク状に取り囲んでいます。ボートはその切れ目を出入りします。そこで、島に入る時、切れ目の左右にブイを浮かせます。

この作業も長男にやらせました。右のブイと左のブイを間違いなく覚えさせます。視界の悪いときの出入りも彼にブイを見つけさせて、その指示に従って航行します。ひとつ間違えば座礁します。また、学齢期のこどもですから、学校の勉強が必要です。時間を特定して勉強させました。数学や国語などを私が教えました。また、こどもはアツという間に現地のこどもと遊び始めます。人は国境や人種の違いを超えて仲良くなれるものだと感動しました。10年の間に長男も長女も15歳を超えました。学校は教科の勉強をするところですが、先生や級友との交流を通して社会生活の基本を身に着けるところです。二人ともアメリカでの学校生活に入っていました。

自由に生きたいという自分の夢を追い続けた10年でした。使ったお金は400万円ほどです。しかし、鹿児島に着いたときには無一文でした。

Q 3 セイリングの後は、再び香港で働かれるわけですが、その時のことを話してください。

A 3 私の夢は人生で20年間働いて後は自分の夢を追い続けたいということでした。ところが、無一文になってみてこれは大変と必死になりました。香港は1にも2にも金(かね)という世界でした。勤勉が第1という日本とは違います。10年間働いていないことを隠さずにエンジニアとしての働き口を探しました。そして、地下鉄会社に就職しました。香港では中国人も出稼ぎ感覚で働きます。一円でも多くの金を貯えようとします。また、お金を金(きん)や宝石に変えて身に付けます。いざというときには逃げ出すためです。私もこの生き方に倣いました。株もやりました。手数料を省くために自分自身で売買をしました。家ではいつも電話のそばに張り付き、ラジオを聞きながら対処する毎日でした。生活もセイリングの時と同じく、できるだけ出費を抑えました。金、カネ、かねの7年でした。

Q 4 なぜ理系のジムさんが、芸術「版画」を京都で始めようと思われたか。よろしければ、圭子さんとの出会いも教えてください。

A 4 人生の前半を理系の人間として生きてきました。それはそれで価値のあることでしたが、人間には文系とか芸術とかいう能力があることを知りました。そこで、私も芸術面に挑戦してみたいという気持ちになりました。そのため、京都で木版の道を探求したいということになりました。良い版画家に弟子入りすることが必要です。この時、師匠を紹介してくれたのが妻の圭子です。彼女との縁はここに始まっています。師匠の徳力富吉郎は版画の技法とかを直接教えてはくれませんでした。時々、茶室に座らせて、茶器や軸物などを見せて「これはいいな。」「これはどう思う。」などと話してくれるだけでした。これが日本の芸術家のあり方なのだろうと自分に言い聞かせていました。しかし、今になって分かりました。版画の技法は見まねで覚えて自分なりの技法を編み出せばいいのです。師匠は美とは何かとか美を見つける眼と大きく人の生き方を間接的に示してくれたのだと思います。

Q 5 私は木版画が趣味です。木版には朴の木(ホオノキ)を使いますがジムさんは何を使いますか。

A 5 私は普通シナベニアを使います。大きな木なので

サイズの大きい板が作れます。師匠は桜の木を使っています。桜は硬く細かい細工にも適していますが値が高いのです。朴の木は柔らかくて作業がし易いですね。

Q 6 国際的に日本人は外の人に対して閉鎖的だと言われているようですが、大江町という町の住人になられてどのように感じられていますか。

A 6 若い時からアフリカ、アジア、ヨーロッパ、太平洋の島々と回りました。そして、それぞれの社会やコミュニティにはそれぞれの伝統、習慣、ルールがあることを知りました。そして、その社会に外から入る場合には、その社会のルールなどを認めて守るのが当然だと思います。大江町には大江町のコミュニティがあることも当然ですから、ある意味で気を遣ったことは事実です。私の妻も日本人とはいうものの茨木や京都に育った都会人ですから同様でした。妻のアドバイスを受けながら村の一員になれるよう努めているつもりです。人々は親切でやさしいです。今では村の溝掃除や祭りにも参加します。私は町の「版画教室」や「英会話教室」で多くのみなさんと交流しています。日本はタテ社会だといわれますが、それを欠点だといわずでなく違いと認めればなんでもないことです。しかも、今の日本の人々の外国人についての思いは、かなりオープンになっているのではと感じます。今、妻と二人で鉄筋木造の工房を建てています。基礎から仕上げまですべてを私たちでやるつもりです。完成予定年は分かりません。良ければみなさんも大江町をお訪ねください。(昨年10月20日、台風23号が近畿北部を襲いました。由良川が氾濫して大江町も大変な被害を受けました。ジムさんの自宅は無事でしたが、多くの家は二階まで水に浸かりました。その時、ジムさんは村のみなさんと一緒に救助や復興の活動をしたそうです。不幸な出来事でしたが、ジムさん夫妻にとっては完全に地域の一員として受け入れられる機会となったのではないかと思います。)

Q 7 ジムさんはここに参考資料として経済展望会議(Panel to envision economic future)についてのレポート(読売新聞論説委員 黒澤茂樹氏)を用意してくださいました。レポートの趣旨は「日本経済の行く先を危惧」するということです。人口の高齢化と減少期を迎える日本の将来について心配いただいているのでしょうか。

A 7 戦後の日本は廃墟から立ち上がり世界第2位の経済大国として発展してきました。ところが、この「2004年における国別経済競争力」を示すグラフによると、1位USA、で日本は23位にランクされています。また、「2050年の国別GDP予測」では1位中国、2位USA、3位インドとなっており、日本は4位です。これが正しい現実と予測だとは思いたくないのですが、最近のBRIC(Brazil, Russia, India, China)の経済膨張や日本の人口減少を考えると無視するわけにはいきません。

しかし、これまでに蓄積してきた勤勉性と技術力を失わなければ日本には日本の道があると信じています。量で競うのではなく質で競う方向を維持し発展させて欲しいと思います。そのためには、改めて教育改革が必要です。ありがとうございました。

平成17年度 5月スタート!!


お待ちしております! あなたのチャレンジを!

「ことばの教室」受講生募集

場所 三木市立教育センター

教室	講師	曜日	時間	回数	受講料(年会費2,000円を含む)
英会話実用	Melissa	月	19:00~20:30	30	3万円
日本語	ボランティア	月	19:00~20:30	30	無料
英会話中級	Laura	火	19:00~20:30	30	3万円
韓国語初級	留学生	火	19:00~20:30	30	3万円
英会話初級A	岡田富士子	水	19:00~20:30	30	3万円
英会話初級B	新田 俊子	木	10:00~11:30	30	3万円
中国語初級	山口 玉花	木	19:00~20:30	30	3万円
中国語中級	陳 那森	木	19:00~20:30	30	3万円
英会話初級C	河越 恭子	金	10:00~11:30	30	3万円
スペイン語入門	中田Alfredo	金	19:00~20:30	30	3万円

お申し込みは4月末日までに事務局記へ(受講料は5月スタート日)

「ことばの教室」受講申込書		
ふりがな 名前	〒 住所	
Tel	Fax	
教室番号 () 教室名 ()		



平成17年度 総会・記念講演

5月21日 土曜日 午前10:00

三木市立教育センター

総会 H16事業・決算 H17事業・予算

講演 「アジアの国々と日本」

フォトジャーナリスト 宇田有三 氏

多くのみなさまのご参加をお願いいたします。

◀関西国際大学留学生とトーキングサロンボランティア
春節祭パーティー ~1月22日~

編集あしがき



お陰さまで、ことばの教室(10クラス)、パイセリア市長一行の三木市訪問、こども英会話、チャリティーバザー、クリスマスパーティー、英語落語他五つの国際理解講座などのイベント事業を無事終えることができました。また、ゴミだしパンフや金物パンフの多言語翻訳、国際防災会議展示案内通訳などの協力も手がけることができました。ご支援ご協力誠にありがとうございました。来年度は10月に三木市と吉川町の合併が実現します。その際国際交流協会も合併ということになり、吉川町のみなさんとともに活動することになります。新しく加わっていただく吉川町のみなさんとともに事業を拡大充実するよう努めたいと思います。引き続き、ご協力ご支援をお願いします。

編集・発行

三木市国際交流協会

〒673-0492 三木市上の丸町10-30(市企画部企画政策課内)

TEL (0794) 89-2318

FAX (0794) 82-9755

[E-mail] kokusai@city.miki.hyogo.jp

[ホームページ] http://www.city.miki.hyogo.jp/